

【主催】日本河川・流域再生ネットワーク／「小さな自然再生」研究会  
【協力】滋賀県立大学環境科学部 / 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
公益財団法人リバーフロント研究所

## 「小さな自然再生」現地研修会（第31回）開催報告

2025年12月6日（土）滋賀県内の琵琶湖流入河川



犬上川



渋川



童子川



野洲川



日本河川・流域再生ネットワーク

2026年3月



河川  
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

# 「小さな自然再生」現地研修会（第31回）

## 開催報告

2025年12月6日（土） 滋賀県内の琵琶湖流入河川

### はじめに

滋賀県内の琵琶湖流入河川である犬上川、愛知川、野洲川、家棟川をフィールドに、滋賀県内でこれまで取組まれてきた小さな自然再生による河川環境の場づくりや手づくり魚道の現地を専門家の案内で巡り、他地域での展開を念頭に、技術や進め方等のノウハウを参加者とともに学び合いました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学んだ内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力頂きましたの皆様に厚く御礼申し上げます。

2026年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

## 開催概要

- 開催日時： 2025年12月7日(土) 13:00~17:00
- 開催場所： 滋賀県内流入河川(犬上川、愛知川、野洲川、家棟川)
- 参加者： 55名
- 主催： 「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク
- 協力： 滋賀県立大学環境科学部 / 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
公益財団法人リバーフロント研究所

## プログラム

(12:40) 集合： 南彦根駅西口<JR 琵琶湖線>

(13:00~17:00) 小さな自然再生の現地を巡るツアー(貸切バス)

・犬上川~愛知川~野洲川 or 家棟川・童子川の小さな自然再生の現地を視察。

- 13:00 南彦根西口ロータリー出発【グループA、B、C】

| 移動

- 13:10~13:50 犬上川見学

| 移動

- 14:40~15:20 愛知川見学

| 移動

【グループA(童子川)】

- 16:10~16:40 童子川見学(ピワマス魚道づくり)

| 移動

- 17:00 野洲駅着

【グループB、C(野洲川)】

- 16:10~16:40 野洲川見学(アユの産卵場づくり)

| 移動

- 17:00 野洲駅着



### ■現地案内講師：

瀧健太郎(滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)、  
佐藤祐一(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)、  
白尾豪宏(公益財団法人リバーフロント研究所)、  
岩瀬晴夫(株式会社北海道技術コンサルタント)

(17:00) 解散： 野洲駅<JR 琵琶湖線>

## 視察先一覧

**① 犬上川**  
ハリヨわんどの再生

びわ湖ベース INSTAGRAM

**② 渋川 (愛知川支川)** ビワマス魚道

**③ 童子川**  
ビワマス魚道

佐藤さんnote

**③ 野洲川 (直轄)**  
パープ工を利用した  
アユ産卵床づくり

近畿地方整備局 琵琶湖河川事務HP



南彦根駅西口をスタート

## 【犬上川： ハリヨわんどの再生】



## 【愛知川流域渋川： ビワマス魚道】



## 【家棟川流域童子川： ビワマスの産卵床づくり及び魚道】



## 【野洲川： アユ産卵床づくり】



# 参考資料 1 (各視察先河川の補足説明資料)

## 【参考資料 1-1】 犬上川

### 滋賀県犬上川中下流部における湧水性希少魚のハビタット保全計画の検討

上田杏樹<sup>1</sup>・泉野珠穂<sup>2</sup>・金尾滋史<sup>1,3</sup>・瀧健太郎<sup>1</sup>

(1. 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科, 2. 株式会社ウエスコ 防災・環境事業部, 3. 滋賀県立琵琶湖博物館)

#### 背景・論点

##### 保全対象種: ハリヨ

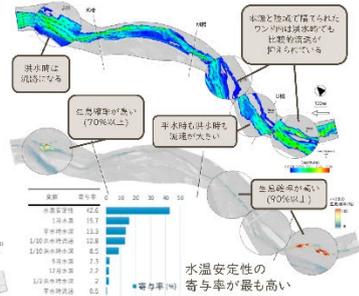
日本固有種、絶滅危惧種 I A類  
一年中20℃以下の冷水域(湧水環境依存種)  
流れが緩やかな止水域、営巣するための水草が繁茂  
底質が泥から砂泥

##### 対象地域: 滋賀県犬上川

特徴: 扇状地(セグメントI)に位置  
湧水: かつては豊富かつ複数個所に存在  
現況: 河床掘削や護岸・護床工等で生息地が消失

##### 河川整備でハビタットが減少し、絶滅の危機

熱赤外画像及び計算水理諸量を用いた種分布モデルを活用した結果、ハリヨの新たな生息地になりうるワンドを発見試験施工案を提案



可視画像、水温安定性、水深・流速、生息確率

#### 河畔林の誤伐採

・周辺の竹・柳・ヨシ等で形成されていた植生カバー(日陰)の消失

▶ 水温上昇・外敵による捕食圧が増加  
▶ スクリーン効果の消失

▶ 洪水・土砂の流入が頻発化  
▶ 洪水流の高速化

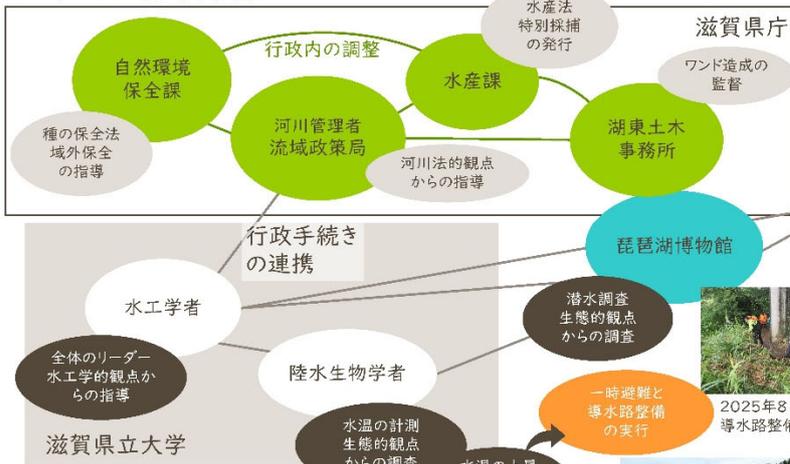
・主流路は経年的な土砂堆積で河床の上昇、ワンドより高水位

- 1) 主流化の可能性(大洪水時)
- 2) 埋没の可能性(小洪水時)

2025年7月10日



#### ハリヨの域外保全



#### 特別採捕の目的

希少魚類個体群の保全研究として生息域の環境変化に瀕している希少魚ハリヨ個体群を採捕し水槽にて生息域が改善するまで飼育したのちに野生復帰を図る



びわこベース  
ハリヨの飼育・繁殖



2025年8月16日採捕及び移動びわこベースでの飼育の様子

今後の予定  
今秋ハリヨを繁殖  
来春稚魚個体を犬上川に放流



#### ワンド造成工事

2025年9月1~3日



ワンドのイメージ





**滋賀県 / 家棟川**  
やなむながわ

## 多様な主体の協働で ビワマスを取り戻せ！



**【ビワマス】Profile**

【河川名】 家棟川 / 童子川  
【地域名】 滋賀県栗東市・小浜町  
【産卵期】 5月～7月  
【産卵場】 急流・浅瀬



琵琶湖から琵琶湖のため池へ上るビワマスをシンボルとし、市民、企業、行政、専門家がタッグを組み、それぞれにしがてまを担っています。

### 経緯・目的

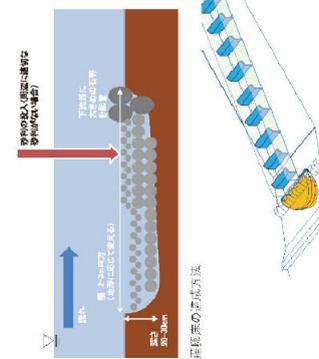
**家棟川はかつてビワマスの産卵場であったが、**河川改修により、急流が減少し、産卵に適した環境が失われてしまった。また、市民による自然再生活動の推進により、産卵場を回復させる必要が生じた。このため、市民、企業、行政、専門家がタッグを組み、それぞれにしがてまを担って、産卵場の回復に取り組んでいる。

### 活動のながれ

- 2011.11 市民らによる水環境・水質調査の調査開始
- 2015.8 「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト」結成
- 活動① ビワマス産卵場・バーブ工の完成
  - 2015年10月 産卵場整備
  - 2016年3月に初めて産卵を成功
  - 2016年10月以降、毎年産卵の成功
  - までの半年間で産卵数を増加
  - 2017年10月以降、バーブ工の設置
  - 産卵場の形成と産卵場の維持
- 活動② 産卵場への産卵の促進
  - 2016年10月 産卵バリエーションの調査
  - 2017年10月 産卵場整備の調査
  - いずれもビワマス産卵を促進
  - 2018年10月 産卵場整備の調査
  - ビワマスの産卵を促進
- 活動③ ビワマス産卵場と産卵場
  - 2016～2018年10～11月
  - 市民による産卵のビワマス産卵場調査と産卵場の管理

### 使用材料・工具・造り方

産卵場にはビワマスの産卵に適した砂利が少なく、砂利を産卵場から約10cm程度の深さまで投入し、産卵場を造成する。造成は、1. 産卵場を造成するための砂利を投入する。2. 産卵場を造成するための砂利を投入する。3. 産卵場を造成するための砂利を投入する。



2018年に設置した産卵場。造成は産卵場に設置



## 野洲川改修事業の概要

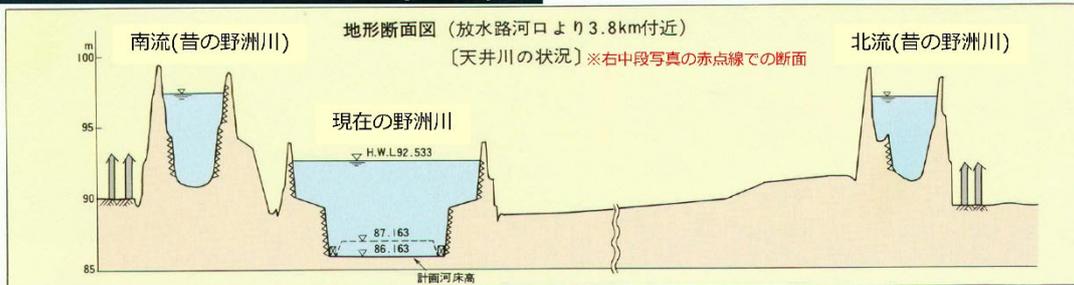
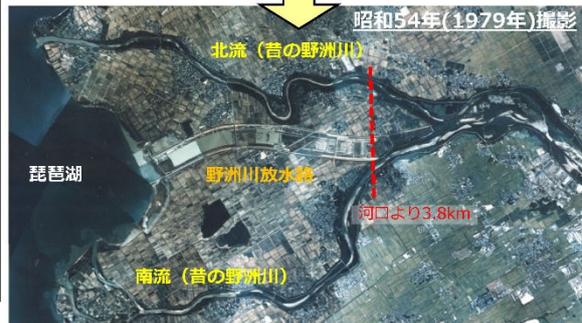
野洲川は、滋賀県と三重県の境にある御在所岳にその源を発し、甲賀市、湖南市、野洲市、栗東市、守山市を流れ、琵琶湖へと注ぐ、琵琶湖の流入河川の中で最大の延長を有し、幹線流路延長65km、流域面積387km<sup>2</sup>の一級河川である。

かつての野洲川は、河口から5km付近で北流と南流の二又に分かれ、琵琶湖へと注いでいた。現在の野洲川は、人間の手によって造られた放水路であり、かつての野洲川は天井川と言われ、川底が平野部より高い状態となっていた。

### ■ 流域の概要



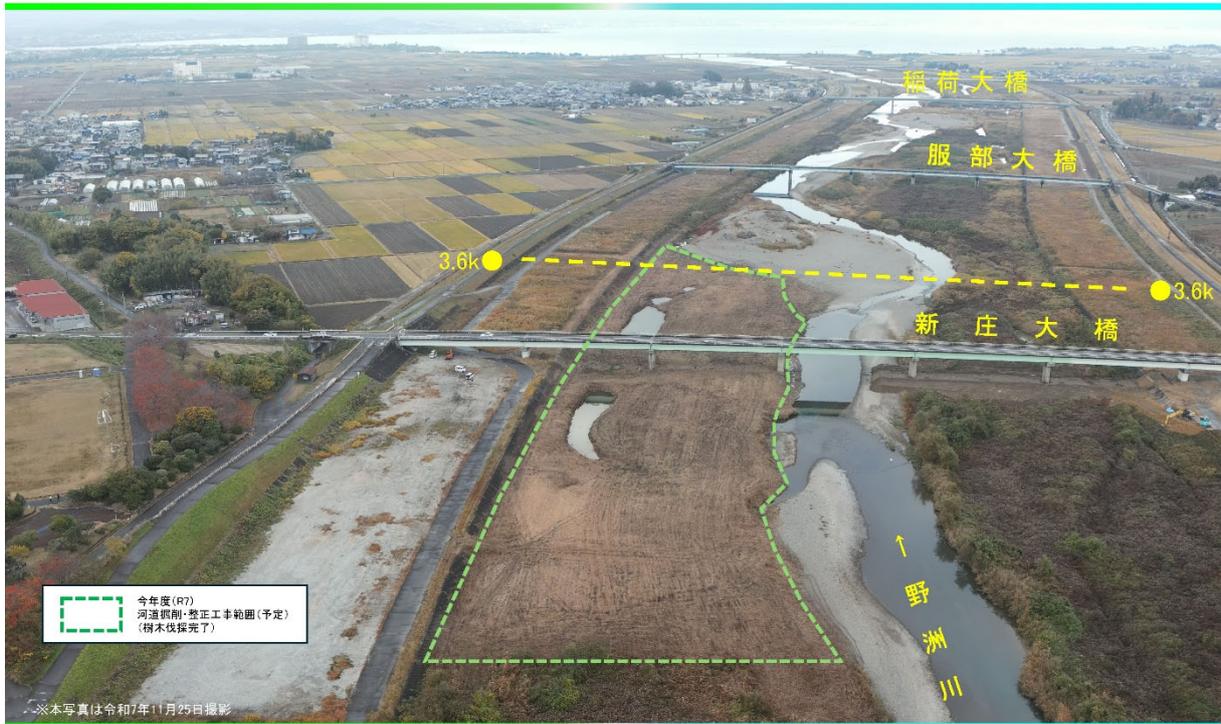
### ■ 野洲川の変遷



## 野洲川の現況1 (新庄大橋下流上空から上流を望む)



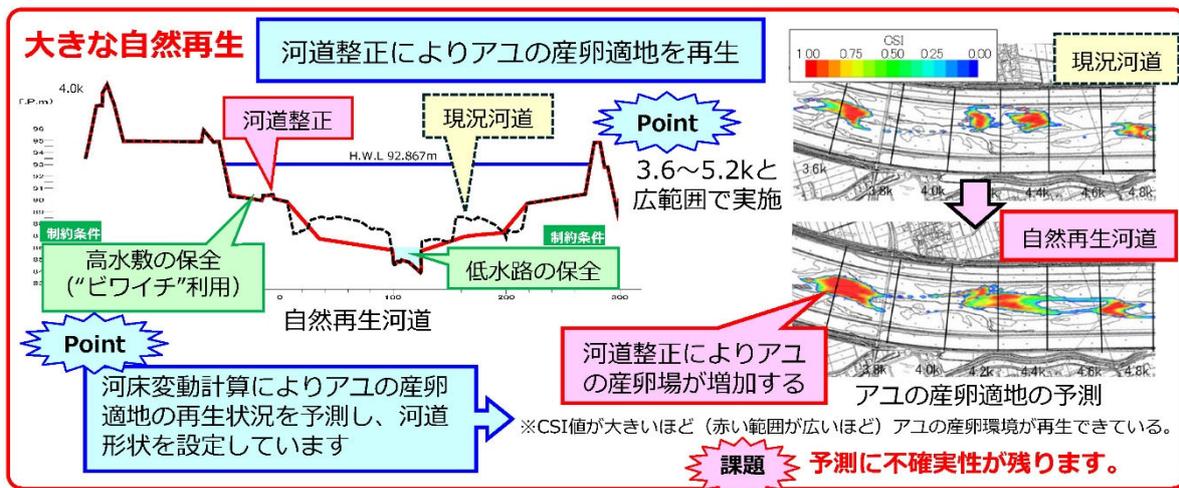
## 野洲川の現況2 (新庄大橋上流上空から下流を望む)



【参考資料 1-4】 野洲川 (3/4)



滋賀県（琵琶湖）最大の河川・野洲川で、アユの産卵場再生を指標に国の自然再生事業（**大きな自然再生**）と、河川管理者・行政・企業・市民と一緒にアユの産卵場を整備する**小さな自然再生**に取り組んでいます。



**小さな自然再生** 人の手による河床耕転や簡易バープ工の設置

子供から大人までたくさんの方が参加してくれました

生分解性の土嚢袋によるバープ工の設置

大きな石が取り除かれ、河床が更新される

瀬が卓越・多様な流れが再生

Point 人の手で丁寧に仕上げます！

※本活動は、守山市の環境学習として実施されています！

大きな自然再生と小さな自然再生の「よいとこ取り」が自慢です 😊

## 小さな自然再生2.0の背景

※小さな自然再生2.0とは、大きな自然再生と組み合わせることで、小さな自然再生の効果を最大限に引き上げることとして定義しています。

(1)野洲川では、国土交通省が平成21年より「昔から生息する魚類が棲みやすい河川環境の再生」という目標で自然再生事業を実施しています。

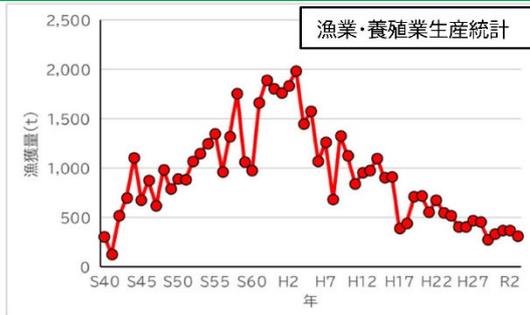
事業内容

- ①落差工魚道の改築 (H23事業完了)
- ②河口部ヨシ帯の再生 (R元事業完了)
- ③瀬淵の再生
  - 第Ⅰ期区間：水制工による瀬・淵の再生 (R6整備完了)
  - 第Ⅱ期区間：河道整正による瀬・淵の再生 (R7整備着手)



野洲川の自然再生事業の実施状況

(2)琵琶湖のアユは平成4年をピークに減少しています(令和7年は記録的なアユの不漁)。



琵琶湖のアユ、1月の漁獲量が激減 漁師「ここ半世紀にない事態」  
朝日新聞 2024.2.23



琵琶湖の湖魚を代表するアユの1月の漁獲量が平年の約3%にとどまり、記録が残る2009年以降で最も少なかったことが、滋賀県の調査でわかった。昨夏の猛暑により産卵が少なかったことなどが原因とみられるという。県内の漁業関係者は「ここ半世紀にない事態」と危機感を募らせる。県は追加調査をして原因を調べている。

アユの漁獲量の激減の報道記事

琵琶湖流入河川で最も大きい野洲川でのアユ産卵増加の期待高まる

自然再生事業(瀬淵再生)の指標: **アユの産卵**



※赤文字:アユの主な産卵河川を示す。

主な琵琶湖流入河川とアユの産卵場

(3)守山市は環境学習都市宣言を行っています。

「環境・健康・交流をはぐくむ活動拠点づくり」を基本理念とする『もりやまエコパーク(環境学習都市宣言記念公園)』を拠点に、「環境コミュニケーター」による多様な環境学習が実施されていて、市民の関心が高い。

国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所

こちらの情報もご覧ください⇒



## 参考資料 2 - 参加者募集チラシ



開催日時	令和7年12月6日(土) 13:00~17:00
会場	滋賀県内の小さな自然再生の取り組み現場 <犬上川、愛知川、家棟川、野洲川>
対象	小さな自然再生に興味・関心のある方々
定員	40名(先着順)
参加費	無料
持ち物	長靴、雨具(少雨決行)
プログラム	※主催者側で行事保険に加入いたします。

※本行事は「小さな自然再生サミット2025京都大会」のサイドイベントとして開催します。参加申込はサミット専用ページよりお申し込み下さい。

(13:00) 集合	: 南彦根駅西口<JR琵琶湖線>
(13:00~17:00) 小さな自然再生の現地を巡るツアー	(貸切バス) ・犬上川~愛知川~家棟川・童子川~野洲川の小さな自然再生の現地を巡ります
■現地案内講師:	瀧健太郎(滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)、佐藤祐一(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 白尾豪宏(公益財団法人リバーフロント研究所)、岩瀬晴夫(株式会社北海道技術コンサルタント)
(17:00) 解散	: 野洲駅<JR琵琶湖線>



河川基金 公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: 「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

協力: 滋賀県立大学環境科学部、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、  
公益財団法人リバーフロント研究所

(MEMO)

(MEMO)



## 「小さな自然再生」現地研修会（第31回）開催報告

～ 2025年12月7日（土）滋賀県内の琵琶湖流入河川 ～

2026年3月25日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN 事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。

